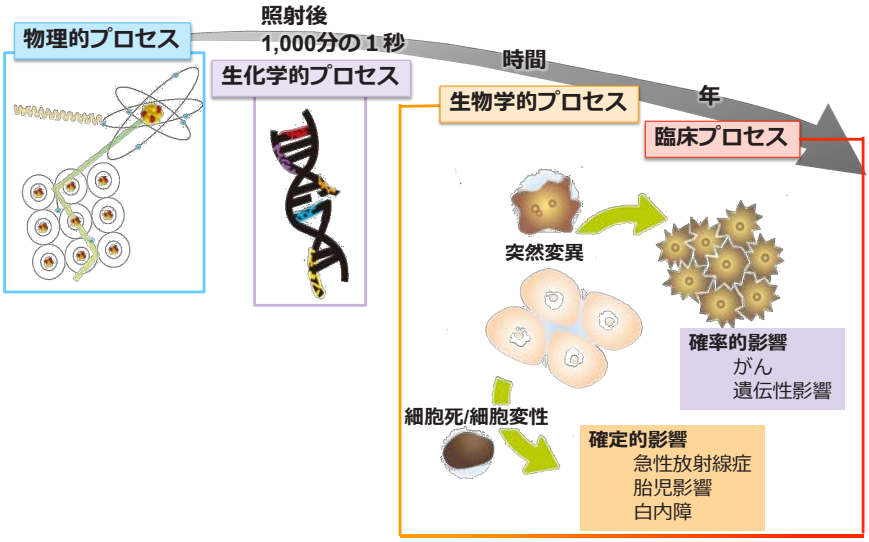
人体影響の発生機構

被ばく後の時間経過と影響



放射線を浴びた後、1,000 分の 1 秒という短い時間に DNA 切断や塩基損傷は起こります。1 秒後には修復が始まり、修復に失敗した場合には、1 時間～1 日の間に細胞死や突然変異が起こります。こうした細胞レベルでの反応が生じてから、個体レベルで臨床症状が出るまでにはしばらく時間が掛かります。この時間のことを潜伏期といいます。

被ばく後、数週間以内に症状が生じるものを急性（早期）影響、比較的長く掛かる影響を晩発影響と呼びます。特にがんが発症するには数年から数十年の時間を要します。

（関連ページ：上巻 P92、「発がんの仕組み」）

本資料への収録日：平成 25 年 3 月 31 日
改訂日：平成 27 年 3 月 31 日